

級別に見たサッカー審判員の心理的特性

松永祐貴（静岡大学大学院）

1. 目的

サッカー審判員を資格レベル別の観点で見た場合、心理的特性にどのような差があるのか、また、そのような差が生じる要因は何なのかを検討する。

2. 方法

- 1) 調査方法：無記名質問紙調査（5件法）
- 2) 対象者：サッカー審判員資格を有する者（1級30名・2級96名・3級82名・4級116名）
- 3) 調査内容
 - ① 資格レベル・性別・審判年数・年齢
 - ② スポーツ審判員心理的スキル尺度（自己コントロール・表出力・意欲・自信・コミュニケーション・集中力）6因子24項目
 - ③ メンタルタフネス尺度（強靱な精神・競技コミットメント・心理的コンディショニング・レジリエンス）4因子12項目
 - ④ DIPCA-3（決断力・予測力・判断力）12項目
- 4) 分析方法：一元配置分散分析，多変量分散分析，判別分析，階層クラスター分析

3. 結果及び考察

- 1) 資格レベルと心理的特性の関係
主に4級とそれ以外の資格レベル間で自己コントロール・強靱な精神以外の11因子において有意差が生じ、4級の方が得点の低い結果であった。
- 2) 資格レベル・年齢と心理的特性の関係
比較的若い年齢層の資格レベル間において、意欲、コミュニケーション、決断力に有意差が見られた。
- 3) 資格レベル・審判年数と心理的特性の関係
比較的審判経験が浅い層の資格レベル間におい

て、コミュニケーション、決断力において有意な得点の差が見られる結果となった。

- 4) 心理的特性から見た資格レベルの類似性
心理的特性の観点から4級とそれ以外の群、1級と2級・3級と4級の3群にクラスター分けすることが可能であるという結果となった。4級とそれ以外を分ける心理的特性は自己コントロール・強靱な精神・レジリエンスを除く10因子、1級と2級・3級を分ける心理的特性は自信とコミュニケーションであるという結果となった。
- 5) 心理的特性の得点と資格レベルの関係
心理的特性の得点から、資格レベルを59.6%判別することが可能であるという結果となった。

4. 結論

本調査において、主に4級とそれ以外の資格レベル間で心理的特性に有意な得点の差が見られた。一方で心理的特性に有意な得点の差が見られなかった資格レベルがあり、その要因には資格レベルごとに担当可能な試合と昇級制度等が考えられる。今後、さらに普段どのようなレベルで審判活動を行っているのか、昇級への意欲はあるのか、サッカー競技経験の有無等を考慮し、さらに心理的特性に与える影響を検討していく必要があると考えられる。

5. 主な参考文献

- 1) 村上貴聡・平田大輔・村上雅彦・宇土昌志・山崎将幸(2017)スポーツ審判員に求められる心理的スキルの評価一尺度の開発とその活用一，東京体育学研究，9:5-12.